

令和元年度 産業教育研修 中学校（家庭）
研修成果報告書

新座市立第四中学校
内田 優子

今年度、研修テーマを「思考力・判断力・表現力を育むための学習指導の研究」とし、研修を行った。本報告書では、年間指導計画の作成と授業実践について述べる。

図1 家庭科における「課題解決学習」のStep

1 年間指導計画の作成

教育における「活用型」学習の流れを参考にして、家庭科における「課題解決学習」の範囲を整理した（図1）。課題解決学習を効果的に行うためには、知識や技能を道具として活用する必要があるため、中学校3年間の学習指導の中で、1年次から段階的に課題解決学習を行うことが有効と考えた。ここでいう段階とは、図1に示すStep1～Step3のことである。図1に示す探究とは、教科を越えた学習であることから、家庭科の授業における「生活の課題と実践」は、活用Ⅱと探究の間に位置づけた。Step1及びStep2を、平成29年告示の学習指導要領における指導事項イの学習に活用し、3年間で計画的に学習できるように年間指導計画を作成した（図2）。

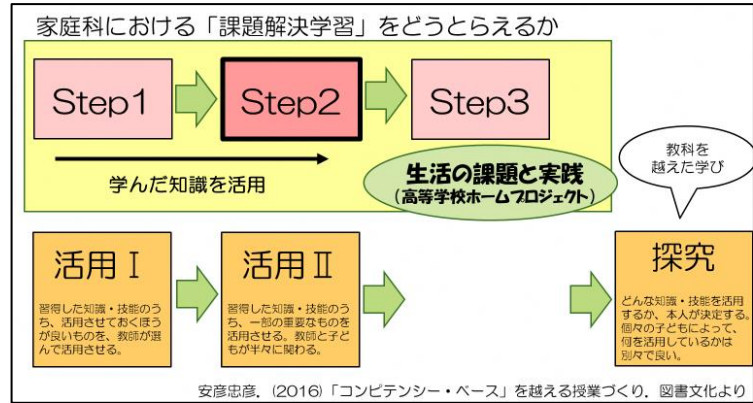


図2 3年間を見通した年間指導計画

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
1年	Step 1										Step 1										Step 2														
2年	Step 1										Step 1										Step 2					Step 1					Step 3				
3年	Step 3										Step 2										Step 1														

1年：35時間、2年：35時間、3年：17.5時間

1年：ガイダンス(2)、衣生活(20)、住生活(6)、食生活(5)
2年：食生活(25)、消費生活(7)、生活の課題と実践(3)
3年：生活の課題と実践(1)、家族・家庭生活(16.5)

2 授業実践

食生活の学習が終了したのち、上記のStep2を想定した授業実践（4時間構成）を行った。

第1時では、「自分の問題を捉える」ことに焦点を当てた。「どんな姿になりたい？」という問いの答えから自分の身の回りにある問題を見付ける手がかりとした。その後、解決テーマを設定することで、個人の課題発見につながるようにした。

①どんな姿になりたい？

自分の問題(problem)を捉える

お肌を綺麗にしたい。

髪が伸びるのが早い。

お風呂が臭い。

肩が凝る。

お金持ちになるにはどうしたら良いと思う？

勉強ができた方が良さそう！まずは高校に入りたいな。

じゃあ、こんなことが必要かな？

②あなたが解決したい課題はどんなこと？

不便や不満を解消したいこと、より良く改善したいこと、困っていることなど、あなたが今気になっている生活の問題を見付けよう。

例) 疲れにくい体にしたい

理由: 自分の睡眠をとりたい。

部活や学校などが終わると、家帰ると、疲れていて、寝るために、次の朝から目が覚めるのが辛い。寝るために、十分な睡眠がとれない。

第2時では、「自分の問題を、解決したい課題として捉えなおす」ことを行ってから、調査活動をした。「すでに知っていること」を書いたうえで「もっと知りたいこと（課題）」を考えるこ

とで、生徒自身が既習事項とのつながりを意識することができる。また「もっと知りたいこと（課題）」が今回調査したい内容になるため、見通しをもって活動をおこなうことができると考えた（図3）。

第3時は、「自分の生活に結び付ける」段階とし、第2時で調査した内容を踏まえて自分の生活で実践できることを考え、発表に向けた準備をした。課題解決のためには多くの情報を集めるが、その情報が生徒にとって理想論で終わってしまえば、家庭で実践することは難しい。そのため、情報を集めた後、発表する前に「情報を生かして自分の現実的な生活と比較し、実践できる内容として再検討する段階」が必要であると考えた。

第4時では、自分の解決テーマに対して実践したいことを、根拠をもって発表した。3～4人の小グループ内での発表後、良いところや疑問点を交流することで、新たな視点を考えるきっかけとなるようにした。また自分のテーマ以外の発表を聞くことで、授業で学んだことについてさらに関心を高めることができると考えた。

第4時の、生徒の発表例を示す。

自分の課題は、集中力が続かないことです。テスト勉強などをしてしているとあきて、すぐに違うことをしてしまうからこの課題にしました。そこで、調べると、鶏肉のイミダペプチドという成分が効果的だと分かりました。イミダペプチドは、疲労回復や疲労感の軽減など、疲れにくくなって、疲れなくなれば集中力が続くと思いました。少しでもいいから取り入れていきたいと思いました。

私の解決テーマは「背を伸ばすにはどうしたら良いか？」です。なぜこの解決テーマにしたかという、自分の身長をもっと伸ばしたいからです。牛乳を飲むと身長が伸びると思いがちですが、実はそうではなくて、カルシウムはたんぱく質と一緒にとると効果があるので、私はカルシウムだけをとるのではなく、たんぱく質も一緒にとろうと思います。なので、普段の生活では、牛乳だけではなく、たんぱく質が入っている肉や魚なども食べることを実践します。

私はスタイルをよくしたいと思ったので、「健康的にスタイルをよくするにはどうしたらいいか？」という課題にしました。調べた結果、和食がいいということが分かりました。和食はあまり油を使っておらずヘルシーで、栄養のバランスがいいので健康的にダイエットができます。他にもヨーグルトやショウガ、野菜類ではトマト、パプリカ、ほうれん草などの緑黄色野菜がダイエットに効果的だということが分かりました。なので私は、和食や緑黄色野菜を中心に食べようと思いました。

図3 第2時ワークシート

図4 課題解決学習を支える教材・教具例

3 成果と課題

「問題を捉えてから、課題を捉えなおす」という細かな段階を踏んだ指導を行うことで、課題解決学習に慣れていない生徒もスムーズに取り組むことができた。授業実践前後の質問紙調査では、授業後の生活意識が高まった。振り返りでは、73.5%の生徒が、学びを自分に引き寄せて記述することができた。課題を解決する過程で学んだ知識を振り返ったり、新たな視点を加えたりすることで、基礎的な知識の定着率も上がる。また解決したいという必要感をもつことは学ぶ意欲につながると考えられる。

今後、課題解決学習を授業に取り入れるためには、何を活用させたいのかを考えてから知識・技能を習得させる必要があると考えた。活用させることを意識するには、体系的に学ぶ資料（図4参照）があると望ましい。また、食生活以外の内容の指導方法についてもこれから検討していきたい。